

家庭教育力の強化を図ろう

～子供とメディア機器の関わり方を考えよう～

西尾市立室場小学校PTA

1 学区及び学校の概要

本校は、西尾市の東端にあり、幸田町と接している。学校の東側には茶白山をはじめとする山々があり、校区を見下ろしている。校区内には田畑が多くあり、また、中央を須美川が流れるなど、子供たちが触れ合える豊かな自然や緑に恵まれている。本校は、明治6年に「嚶嚶（おうおう）学校」として開校して以来、本年度で創立150年を迎える。昭和46年度に研究指定校となったことをきっかけとして続く「作文教育」と、平成9年度以降ゲンジボタルの人工飼育活動を地域と家庭と子供、学校の4者をつなぐ教育活動の基盤として取り組んできている。



本年度は、学級数10学級（含：特別支援学級2学級）、児童数は204名である。

2 研究のねらい

近年、タブレットやスマートフォンやゲーム機等（以降、「メディア機器」と呼ぶ）の使用が低年齢化をしている。それに伴い、子供の昼夜逆転や視力の低下、脳への影響等といった健康面、また、インターネット上での友人関係のトラブルや、詐欺や誘拐といった生活面での影響が問題となっている。

学校では、「GIGA スクール構想」により一人一台のタブレットが普及し、学習面においてもその活用は進んでいるが、子供たちのメディア機器の使用はそのほとんどが家庭においてである。そこで、子供とメディア機器の関わり方と子供を被害から守るために、メディア機器の使用による子供への影響に対して、保護者の知識を深めたり、意識を高めたりする必要があると考え、本研究を行うこととした。

3 研究の仮説

保護者が、子供とメディア機器との関わり方について、その影響を学ぶ場や子供と共に関わり方を考える場を位置づければ、保護者は子供とメディア機器との関わり方に対する意識を高め、子供への関わり方を考えることができるであろう。

4 研究の方法

本校では、昨年度から子供とメディア機器の関わり方について取り組んでおり、本年度は、継続としての取り組みの中に保護者の学びの場と関わり場の場、意識を高める内容を組み込むこととした。

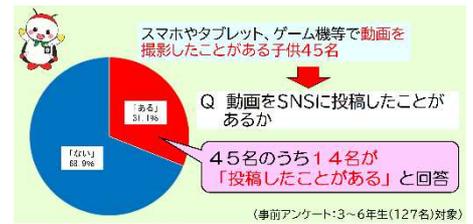
5 研究の実践

(1) 6月 学校保健委員会「インターネットの安心安全な使い方」

ア 子供たちの実態調査

まず、実態把握として3年生から6年生の127名を対象としたメディア機器使用についてのアンケート調査を行った。その結果の概要は以下のとおりとなった。

- ・約3割の児童が自分のスマートフォンを持っている。
- ・45名の児童がメディア機器で動画を撮影した経験をもつ。
- ・動画を撮影した経験がある児童のうち、14名がその動画をSNSに投稿した経験をもつ。
- ・5名の児童がこれまで会ったことがない人とSNSやオンラインゲーム等で知り合いになっている。
- ・知り合いになった5名のうち、1名が連絡先を教えている。



イ 「インターネットの安心安全な使い方」講座

学校保健委員会当日では、アンケート結果の発表に加え、講師のe-ネットキャラバンの方と調整し、「ネット依存」「ネットいじめ」「誘い出し・なりすまし」の3つの危険やトラブルにあわないために自分ができることなどについて講話をしていただいた。講演には児童に加え、保護者も自由参加とした。その主な感想は以下のとおりである。

- ・小学生がSNSで知り合った人と会っているということに驚いた。
- ・子供だけでなく大人もためになる内容だった。
- ・子供を守るためにも、自分自身も気をつけなければいけないと思った。

(2) 10月 家族と行うメディアチェック

本校では、学期に一度、生活を見直す健康チェックを行っている。10月は、6月のメディア機器使用に関するアンケート結果や学校保健委員会での講演を受け、メディアチェックを行った。

このチェックカードでは、子供のメディア機器の使い方と共に保護者の意識を高めることをねらい、①「メディアルール」を保護者と子供で考えること、②最後に保護者からのコメントを記入してもらうこととした。その主なコメントは以下のとおりである。

日時	10/17 (火)	10/18 (水)	10/19 (木)	10/20 (金)	10/21 (土)
家庭用PC での使用状況 ①「メディアマニ ュール」を守るに 注意 ②家族が使用する 個人情報を他人 に入力しない ③SNSに画像を 「ない」 ④家族のいる部屋 で使う					
①子供に教える _____ _____ _____	②お母さんのコメント _____ _____ _____		<input type="checkbox"/> 参加 <input type="checkbox"/> 不参加 <input type="checkbox"/> 不明		

- ・自分の部屋で使っていることが多く何をしているのかわからないので、皆のいるところで使うように声かけをしていきたい。
- ・ゲームを楽しむのにインターネットにつなぐのが必要だったので、「みまもり設定」をつけたり、他人とチャットができないようにしたりしました。

6 研究の考察

学校保健委員会では、子供の実態が想像を大きく超えていることに驚きを感じたり、講演内容からメディア機器やインターネットの危険性について切実感を高めたりした様子を保護者の感想からうかがうことができた。また、メディアチェックでは、子供の取り組みに加え、自身が子供にどのように関わるかといった意識の高まりを保護者のコメントからうかがうことができた。

7 成果と今後の課題

○ 学校保健委員会、メディアチェック共に、参加や協力をした保護者は、新たな発見をしたり、メディア機器が子供に及ぼす危険性について意識を高めたりすることができた。

▲ 学校保健委員会は自由参加としたため、少数の保護者参加にとどまってしまった。

子供のメディア機器の使い方は家庭の時間が中心となることが多いため、保護者の知識や理解を深めたり、意識を高めたりすることが、今後、さらに重要になってくると考えられる。学校教育に加え、家庭教育を支援する社会教育の側面からのアプローチも必要となってくる。